

## SB38 サイドイベント傍聴報告

2013年6月12日  
一般社団法人海外環境協力センター (OECC)

本傍聴報告は、2013年6月3日～14日にドイツ・ボンで開催された国連気候変動枠組条約第38回補助機関会合 (SB38) において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

- タイトル：国連気候技術センター及びネットワークに関する最新情報 (“Update on the UNFCCC Climate Technology Centre and Network(CTCN) ”)
- 日時：2013年6月12日 (水) 13:15 - 14:45
- 主催：UNFCCC 事務局
- 会場：The Ministry of the Environment of Germany: Room Solar
- プレゼンター：
- Zitouni Ould-Dada (UNEP)、 Mark Radka (CTCN Interim Director)、 Fred Onduri (CTCN アドバイザリー委員会副議長)、 Griffin Thompson (CTCN アドバイザリー委員会議長)、 John Christensen (UNEP Riso Centre)

### ■ 概要

1. CTCNについてのビデオを通じた紹介 (John Christensen)
2. CTCNに関する概要紹介 (Mark Radka)
  - CTCNの役割は、CTCNに要請を挙げた途上国を支援するために、技術の発展や移転を促進し、技術協力を支援することである。
  - 主な機能としては、以下の3つがある。
    - ① 途上国の **National Designated Entities (NDE)** からの要請を管理し、その対応を行う。
    - ② 情報や知識へのアクセス、共有を促し、技術移転を加速させる。
    - ③ ネットワーク、パートナーシップ、技術移転のキャパシティビルディングを強化する。
  - CTCNの構造は、技術資源をプールしているコンソーシアムに支えられる、UNEP及びUNIDOによって共同管理されるコアセンター (Core Centre) であり、ネットワークを介して繋がっているメンバーにより支援される。
  - 作業の流れは、CTCN技術管理者へのNDEからの要請に始まり、CTCN専門家チームが対応案を策定し、ネットワークメンバーから支援が実施される。
  - 知識管理システムの機能は、以下の4つがある。
    - ① 利用可能な技術、コストパフォーマンス、政策とファイナンスの包括的な情報ライブラリーの提供

- ②技術協力の経験や結果の蓄積
  - ③CTCNの成果の外部専門家による検証及びフィードバック
  - ④オンラインによる訓練、1対1での情報交換、専門家のアドバイス等の準備
- 予算は2年半で1,500万ドルとなっている。
3. CTCN第一回アドバイザリー委員会（5月14、15日開催）について（Fred Onduri）
- 構成メンバーは、政府、技術エグゼクティブ委員会、緑の気候基金、適応委員会、Environmental NGOs (ENGOs)、Research-oriented and Independent (RINGOs)、Business and Industry NGOs (BINGOs) から成る。
  - 第一回委員会の目的は、議長・副議長の選出、手続規則の合意、CTCNの手続や様式の合意、2013-2014年のCTCNの作業計画の合意、SB38への作業進捗報告書についての合意であった。
  - 委員会は、およそ40名のオブザーバーが参加し、協力的な雰囲気の下、成功裏に終わった。
  - 今後は、地域ごとの対話（バンコクでの地域専門家対話、アフリカでの対話会合、UNEP-ADBのパイロットプロジェクトの各地域での宣伝等）を行い、広報に努める。
  - 2013年9月に第二回アドバイザリー委員会を開催し、以下の5つを決定する予定である。
    - ①要請への対応基準の策定
    - ②ネットワーク構造の基準の策定
    - ③CTCNの手続や様式の合意
    - ④2014年作業計画と予算の合意
    - ⑤COP19へのCTC-TEC共同報告書の合意

#### ■ 質疑応答

Q. (日本国環境省) : 1) 管理スタッフの採用はいつ終わるのか、2) NDEからの具体的な要請をいつ受け付けるのか、3) GEFは、UNEPやADBと協力し、地域技術センターの仕組みを既に有している。これらの組織とどのように協力を行うのか。

A (Q1について) Mark Radka : ポジションによって異なるが、来週あたり(6/17の週)に、非常に有能な管理スタッフを確保する予定である。

A (Q2について) Fred Onduri : できる限り早く行いたいだが、時期を明言することは控えた。要請受付までの作業計画を策定する予定である。

A (Q3について) John Christensen : 緑の気候変動基金の委員と話を رفتりするなど、協力関係の構築に向けて努力している。

Q. (不明) : 南南協力では、既に多くの実績があるが、そのような活動に対し、どのように

対応するのか。

A. **Griffin Thompson:** 既になされている活動とのシナジーを第一に考える。ネットワークの状況を見て、それを拡大することを考えている。ニーズのある地域での能力開発が重要だと考えている。

Q. (地球環境センター) : ネットワークメンバーにはどのような形で協力を要請するのか。

A. **Griffin Thompson:** 個別に契約を結び、ネットワークに参加してもらう。その意味では、デンマークは技術や人材を集める上で最適である。

Q. (不明) : 適切な技術の基準とは何か。

A. **Fred Onduri:** 基準は、国によって異なるだろう。環境面、社会・文化面、削減・適応ポテンシャルなど様々な要素を考慮し、国ごとのグッドガイダンスを策定したい。

(報告者 : OECC 木村 進一)

---

サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版

[http://www.mmechanisms.org/relation/details\\_oecc\\_SB38report.html](http://www.mmechanisms.org/relation/details_oecc_SB38report.html)

英語版

[http://www.mmechanisms.org/e/relation/details\\_oecc\\_SB38report.html](http://www.mmechanisms.org/e/relation/details_oecc_SB38report.html)